

令和5事業年度経営目標の達成状況の評価

2024年5月17日

日本中央競馬会 経営委員会

日本中央競馬会経営委員会は、日本中央競馬会法（昭和29年法律第205号）第8条の3第3項の規定に基づき、日本中央競馬会（以下「JRA」という。）の令和5事業年度経営目標の達成状況の評価を行った。

本経営委員会が行う評価は、これを業務執行に的確に反映させることを通じて、各業務の改善及び将来にわたる事業運営の適正性と効率性の確保を図り、中央競馬を一層発展させることを目的としている。

JRAには、今回の評価を踏まえ、業務の改善を図るとともに、より効果的かつ効率的な事業運営がなされるよう求める。

【総評】

令和5事業年度において、基本目標のうち「開催日数288日（36開催）の競馬の着実な実施」は達成することができたものの、「お客様総数の拡大-対前年比100%超」については僅かに前年を下回り達成することができなかった。

自然災害等幅広いリスクに備えつつ競馬を着実に実施したこと、及び発売金については前年を上回ったことはこれまでの様々な取組みの結果が表れたものと評価する。一方、中央競馬が持続的に発展し、競馬の施行を通じて社会への責任を果たしていくためには、より多くのお客様に競馬へご参加いただくことが重要であり、社会環境や消費動向の変化を踏まえつつ時宜を得た施策を実施するよう期待する。

今後とも、全ての役職員が経営の基本方針を常に意識しつつ、夢と感動をお届けできる国際的なスポーツエンターテインメントとしての競馬をより多くのお客様とともに創造してもらいたい。

1. 基本目標

○ 事業運営の根幹となる開催日数 288 日（36 開催）の競馬の着実な実施

- ① 競馬の着実な実施は事業運営の根幹であり、J R Aは、お客様の安全確保の徹底や競馬の公正確保の徹底、防疫面での強固な取組み、競走馬の事故防止対策の推進、各種システムの安定的運用等を通じて、288 日の競馬を遂行する。
- ② より多くのお客様が参加できるよう 288 日の競馬開催日を設定したうえで、自然災害等により当初計画での実施が困難な場合においても、関係各所との調整を速やかに行い、代替競馬・続行競馬の実施について判断する。

令和 5 事業年度においては、当初計画した開催日程に沿って、開催日数 288 日（36 開催）の競馬を着実に実施した。

これは、お客様の安全確保や競馬の公正確保の徹底、防疫面での強固な取組み、競走馬の事故防止対策の推進、各種システムの安定的運用等を確実に実施したことにより達成することができたものと評価する。なお、令和 5 事業年度において、競馬開催の中止に伴う代替競馬・続行競馬の実施はなかった。

今後とも、安定的な事業継続を図るうえで極めて重要となる競馬の着実な実施のため、自然災害等にも適切に対応しつつ、競馬事業に係る各種業務の着実な遂行に取り組まれない。また、競馬開催を通じて社会への責任を果たし、持続可能でよりよい社会の実現に貢献されたい。

○ 魅力ある競馬開催によるお客様総数の拡大—対前年比 100%超

- ① 魅力ある競走の提供等により開催競馬場の入場人員の増加を図る。
- ② 快適な観戦環境の提供や販売ネットワークの拡充等により、パークウインズ及びウインズ等の入場人員の増加を図る。
- ③ 電話・インターネット投票の利便性向上等により会員の増加を図る。
- ④ お客様総数の拡大による発売金の増加を図る。

令和 5 事業年度において、お客様総数は対前年比 99.9%と僅かに前年を下回った。

これは、競馬開催を行った実日数が前年より 1 日減少したことが一因である。また、5 月に新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付けが 5 類に移行し、経済社会活動の正常化が進む中、競馬場やウインズ等の入場人員が増加した一方で、いわゆる「巣ごもり需要」の減退等により電話・インターネット投票の参加者は減少した。

一方、発売金については、対前年比 100.6%と 12 年連続の増加となった。

これは、年初から秋の G I シーズンを迎えるまで前年を下回る状況が続いていたものの、その後、イクイノックス等スターホースの出走・活躍によりお客様の購買意欲が向上した結果、最終的には前年を上回ることができたものと評価する。

今後とも、中央競馬の持続的発展を目指し、お客様の獲得と定着を図るための様々な施策を実施されたい。

2. 個別目標

(1) 魅力ある競走の提供

お客様に長期にわたって中央競馬を楽しんでいただくため、魅力ある競走を提供すべく、以下の項目に取り組む。

- ① G I 競走を頂点としたわかりやすい競走体系を構築すること。
- ② 質の高い出走馬による内容・頭数の充実した競走を提供すること。(平地重賞競走について、1 競走あたりの平均出走頭数が 14 頭以上。)
- ③ 中央競馬が世界のチャンピオンホースを決定する重要なステージとして位置付けられること。

令和 5 事業年度においては、すべての開催日で 12 競走を実施し、法令上の上限である 3,456 競走を 4 年連続で実施した。

また、平地重賞競走の 1 競走あたりの平均出走頭数は 15.0 頭と、目標値 (14 頭以上) を上回った。

また、延べ 84 頭もの J R A 所属馬が外国の競走に出走し、うち 9 競走で優勝したことは、日本の競走馬のレベルの向上をお客様に広く伝えられたものと評価する。とりわけ、ドバイシーマクラシック (G1) を優勝したイクイノックスが「2023 年ロンジンワールドベストレースホース」を受賞し、同馬の引退レースとなったジャパンカップが「2023 年ロンジンワールドベストレース」を受賞したことは、日本競馬が世界最高峰のステージとして位置付けられたものと評価する。

今後とも、国際的なスポーツエンターテインメントとしてさらに魅力ある競走をお客様に提供できるよう、競馬番組の改善や国内外特に海外の一流馬の参加促進に努められたい。

(2) 競走馬の資質・能力の向上等への取組み

競走馬の資質・能力を向上するための各種施策を実施する。

- ① 競走馬の生産育成、保健衛生、事故防止等に取り組む。
- ② 近年の夏季における気温上昇を踏まえ、暑熱対策に取り組む。
- ③ トレーニング・センター等の競走関連施設の充実に取り組む。
- ④ 厩舎運営の活性化、厩舎関係者の養成等に取り組む。

令和 5 事業年度においては、競走馬の資質及び能力のさらなる向上を図るため、競走馬の生産育成や暑熱対策等の各種施策に取り組んだ。

競走馬の生産育成については、日高・宮崎の育成牧場において競走馬の生産・育成に関する研究を行い、JRAブリーズアップセールでは、上場全馬の売却を12年連続で達成したことや、諸団体が実施する軽種馬生産関連事業への助成等の協力を行うなど、生産育成基盤の強化に貢献できたものと評価する。

暑熱対策については、新たな取組みとして東京・阪神競馬場の厩舎への空調設備の新設といったハード面の整備や、札幌・函館競馬場の下見所周回時間の短縮等、ソフト面での対応を行ったほか、競走馬の熱中症予防に資する調査研究を実施し、その成果を厩舎関係者に普及するなど、引き続き積極的な取組みを行った。

競走関連施設の充実にについては、より効果的な調教を実施できるよう美浦トレーニング・センターにおいて坂路馬場を延伸する改造工事を実施した。

競走馬の資質・能力の向上は、より競走の魅力を高め、お客様の獲得・定着にもつながることから、今後とも引き続き各種施策に取り組まれない。

(3) 競馬の公正確保等の徹底

競馬の公正を確保し、又は競馬の円滑な実施を確保するため万全の態勢を整える。

- ① 馬主・競走馬等の登録、調教師・騎手の免許及びその取消しについて、競馬関係法令に基づき、厳正に実施する。また、競馬の公正を確保していく上で必要な制裁や処分を厳正に実施するとともに、競馬の円滑な実施を確保するために必要な措置を行う。
- ② 競馬に対する信頼の確保に向けて、不正事案を未然に防止するため、常に保安体制の整備や注意喚起等を実施する。また、禁止薬物等の飼料への混入防止の徹底に努める。

令和5事業年度においても、登録・免許業務の厳正な実施、不正事案の未然防止の徹底、違法行為の防止等、競馬の公正確保に向けて、継続した取組みを実施した結果、競馬開催に直接影響を与える不正事案の発生はなかった。

一方で、4月には開催日における騎手の不適切な通信機器（スマートフォン）の使用事案が発生した。これは公正競馬に対する疑念を生じさせかねない事案であり、再発防止策を徹底されたい。

また、12月に規制薬物事案が1件発生しており、再発防止に向け、調教師及び獣医師に対し、引き続き周知徹底と注意喚起を行われたい。

公正確保は、競馬に対する社会的信用を維持するうえでの根幹となるものであることから、今後ともお客様に信頼される競馬を提供できるよう、これまで以上に公正確保に万全の態勢で取り組むとともに、職員を含め関係者の教育を充実し、安全かつ円滑な競馬の実施に努められたい。

(4) 競馬への参加促進及び販売促進

競馬の魅力を訴求するとともに、競馬場等における各種施策の実施やWEB等をさらに活用した広報・プロモーション活動を実施することにより、幅広い層のお客様の参加を促す。

また、競馬場やウインズ等における現金投票と電話・インターネット投票の双方の利便性向上を図り、勝馬投票券をより購入しやすい環境の整備に取り組む。

- ① GI競走をはじめとした様々な機会に各種メディアを通じたプロモーションを実施し、競馬の魅力を訴求する。
- ② 競馬中継の安定的な提供やパブリシティ活動の充実により、競馬に対する興味を喚起する。
- ③ 競馬場・ウインズ等においてはUMACA投票やスマッピー投票の更なる普及、また、電話・インターネット投票においては引き続き加入促進に取り組むなど、勝馬投票の利便性の向上を図る。
- ④ 払戻金施策をはじめ、各種販売促進施策を実施する。
- ⑤ 競馬場・ウインズ等のお客様関連施設の改善を進める。

令和5事業年度においては、経済社会活動の正常化の流れを踏まえ、競馬場やウインズ等における現金投票と電話・インターネット投票の双方において、社会の諸情勢を踏まえつつ様々な参加促進・販売促進施策を展開した。

年間プロモーションについては、引き続き「HERO IS COMING.」をキャッチフレーズとして展開し、競馬ファンを中心とした幅広い層に「競馬の本質的な魅力」をアピールした。

UMACA投票の利用促進については、4月には「UMACAポイント」のサービスを開始した。また、利便性の向上のため、11月には「UMACAスマート」を導入した。こうした取組みにより、会員数は大幅に増加した。

販売促進施策については、「JRAプレミアム」及び「JRAプラス10」を引き続き実施するとともに、「JRAスーパープレミアム」を、競馬法100周年記念事業としての実施分を含め、年間4日間実施した。また、電話・インターネット投票に関して、新規会員の獲得や既存会員の参加促進を目的とした各種

キャンペーンを積極的に実施した。

お客様関連施設の改善については、改築工事を終えた京都競馬場が4月にグランドオープンし、幅広い層のお客様に向けたイベントや各種プロモーションを実施した。

これらの参加促進及び販売促進施策の展開により、お客様総数は過去最高であった前年を僅かに下回ったものの引き続き多くのお客様に競馬に参加いただいた結果、発売金が前年を上回ることができたものと評価する。

今後とも、お客様の獲得と定着を図るため、競馬場やウインズ等における現金投票と電話・インターネット投票の双方において、多様なお客様のニーズや時代の変化に即した様々な参加促進及び販売促進施策を効果的に実施されたい。

(5) ホスピタリティの向上

競馬場・ウインズ等にご来場いただいたお客様により快適に競馬を楽しんでいただくため、ホスピタリティの向上に努める。

- ① 接客マナーの向上を図るとともに、接客体制を充実する。
- ② 競馬場・ウインズ等において、観戦環境の向上を図る。

令和5事業年度においては、経済社会活動の正常化に伴い、多くのお客様に開催競馬場やウインズ等へご来場いただくことができた。

そのような状況にあって、お客様が快適に施設をご利用いただけるよう、研修を通じてスタッフの接客マナーの向上を図るとともに、競馬場の通信環境改善に向けたW i - F i 設備の増設や統一されたわかりやすい館内サインの導入等を実施した。

今後とも、お客様により快適に競馬をお楽しみいただけるよう、スタッフの意識向上や施設の改善等の取組みを継続的に実施されたい。

(6) 馬事の振興及び馬の福祉の充実

我が国の馬文化を支え、競馬を健全に発展させるため、馬事の振興や馬の福祉の充実に努める。

- ① 乗馬人口の拡大を図る。
- ② 馬術の振興及び技術の向上を図る。
- ③ 馬事文化の発展に寄与し、競馬への理解を促進する。
- ④ 引退競走馬のセカンドキャリア促進を図るとともに、その養老等に関する取組みを推進する。

令和 5 事業年度においては、各事業所におけるスポーツ少年団や学生を対象とした乗馬指導の実施や、各種馬術大会の開催の支援、馬術の振興に関連する諸団体が行う事業に対しての助成等を通じ、馬術の振興に努めた。

また、引き続き引退競走馬と内国産乗用馬を対象とした馬術大会の開催や、引退競走馬の調教（リトレーニング）技術の研究・検証、障がい者乗馬・ホースセラピーを実施する団体の活動支援に取り組むとともに、引退競走馬の養老等に取り組む団体への支援を行うなど、引退競走馬の利活用促進及び福祉の充実に寄与することができたものと評価する。

今後とも、我が国の馬文化を支え、競馬を健全に発展させるため、様々な取組みを通じて馬事の振興と馬の福祉の充実に努められたい。

(7) 持続的な発展に向けた取組み

中央競馬を持続的に発展させるとともに、持続可能でよりより社会の実現に貢献するため、社会貢献活動や環境問題等に積極的に取り組み、これらを広く社会に伝えることで、社会に愛され信頼される中央競馬を目指す。

- ① 地域社会との連携・協調や畜産振興への支援、馬を活用した次世代育成等を通じて広く社会に貢献する。
- ② 事業活動に伴う環境負荷を極力抑制しながら環境との調和を図る。
- ③ 法令や社会規範を遵守し、組織運営の透明性・信頼性を確保する。
- ④ 効率的・安定的な事業運営を行うとともに、人材の確保等をはじめ事業基盤の更なる強化を図る。

令和5事業年度においては、引き続き社会貢献活動に取り組むとともに、環境負荷の抑制や組織運営の強化、ギャンブル等依存症への対応等、中央競馬の持続的な発展に向け様々な取組みが行われたものと評価する。

環境負荷の抑制については、事業活動に伴い発生する排出物の抑制やリサイクルの推進等に努めるとともに、すべての競馬場において「クリーンエネルギー競馬」を実施した。

また、事業基盤の強化については、重要課題である人材確保に向けた取組みとして、4つの大学における競馬に関する講義や、獣医学生を対象とした実習インターンシップ及び奨学金事業を実施した。

今後とも、中央競馬が社会に愛され信頼される存在となることを目指し、社会貢献や環境との調和に積極的に取り組むとともに、これらの取組みを広く社会に発信していくことを期待する。併せて、ワークライフバランスの実現や人材確保に向けて働きやすい環境・制度を整備するなど、中央競馬の持続的な発展のために必要な諸課題に適切に対応した組織運営を行うよう努められたい。